

2009●図書館展示 9月

ヨーゼフ・ハイダンの 初期交響曲 《朝》 《昼》 《晩》 ～没後 200 年～



企画●国立音楽大学附属図書館広報委員会
期間●2009年8月31日～10月9日
場所●図書館ブラウジングルーム・AV資料室

ヨーゼフ・ハイドンの 初期交響曲《朝》《昼》《晩》 ～ 没後 200 年 ～

Joseph Haydn (1732-1809)

今年、没後 200 年を迎えたヨーゼフ・ハイドンの初期の交響曲《朝》《昼》《晩》に関する本や楽譜をご紹介します。



目次

《朝》《昼》《晩》について	2
《朝》《昼》《晩》の独奏部分	3
楽譜出版の経緯	4
展示資料紹介	5

企画・構成 国立音楽大学附属図書館広報委員会

《朝》《昼》《晩》について

交響曲第 6 番ニ長調 Hob. : 6 (朝)

作曲:1761 年(?)

編成:フルート、オーボエ2、ファゴット、ホルン2、独奏ヴァイオリン、独奏チェロ、独奏コントラバス、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、バス

演奏時間:約 21 分(ロビンズ・ランドンの原典版による指示)

交響曲第 7 番八長調 Hob. : 7 (昼)

作曲:1761 年(自筆譜による)

編成:フルート、フルート(オーボエ)2、ファゴット、ホルン2、独奏ヴァイオリン、独奏チェロ、独奏コントラバス、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、バス

演奏時間:約 24 分(ロビンズ・ランドンの原典版による指示)

交響曲第 8 番ト長調 Hob. : 8 (晩)

作曲:1761 年(?)

編成:フルート、オーボエ2、ファゴット、ホルン2、独奏第1ヴァイオリン、独奏第2ヴァイオリン、独奏チェロ、独奏コントラバス、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、バス

演奏時間:約 21 分(ロビンズ・ランドンの原典版による指示)

1761 年 5 月 1 日、ヨーゼフ・ハイドンは、ウィーンの南南東 45 キロに位置するアイゼンシュタットの、ハンガリーの大貴族エステルハーゼ侯爵家の副楽長に就任した。ハイドンはここで、楽長が担当する教会音楽を除く、侯爵家のあらゆる音楽業務を担当した。交響曲も楽長に昇進する 1766 年までの間に、自筆楽譜で作曲年を確認できる 10 曲を含む 25 曲を作曲したと推定される。

この時期に作曲された交響曲の中で著名なものひとつに今回展示した《朝》《昼》《晩》三部作がある。この《朝》《昼》《晩》三部作は、今日一般に交響曲と呼ばれているが、独奏楽器を多用する楽器編成とオーケストレーションはコンチェルト・グロッツに近く、また、当時の北イタリアとウィーンで流行していたコンチェルト・ネやサンフォニー・コンセルタントの影響が見られる。実際、第 7 番の自筆譜では、ハイドンは《昼》という標題のみを記している。

初期の伝記作家アルベルト・クリストフ・ディースの「ハイドン = 伝記的報告」によると、この三部作はアントン・エステルハーゼ侯の注文によるもので、「この侯爵はハイドンに、作曲のテーマとして、一日中の四つの時刻(朝・昼・晩・夜)というのを与えた。かれはこれを弦楽四重奏曲の形式で作曲した。」と述べている。同書の編者ホルスト・ゼーガーは編者注で「ここでは(一日の交響曲)の三曲だけが考えられ得る。《朝》、《昼》、《晩》(全集、第六番から八番まで)である。」と述べている。

アントン侯は 1762 年 4 月に他界していることから、この逸話が正しければ、この三部作はハイドンが副楽長就任後すぐにアントン侯の主題によって作曲した交響曲で、内容的にも各楽器の独奏部分が多く含まれていることから、エステルハーゼ侯の楽団の紹介を兼ねて作曲されたと見られる。また、新副楽長の顔見世として、楽団員に花を持たせる(あるいは楽団員の力量を量る)べく、見せ場となる独奏部分を多く含む作品を作曲したと思われる。後に楽団員の帰郷の要望をこめて、交響曲第 45 番「告別」を作曲したことのあるハイドンのことであるから、このような目論見は当然あったのではないだろうか。

《朝》《昼》《晩》の独奏部分

交響曲第6番ニ長調 Hob. : 6 (朝)

第1楽章 アダージョ アレグロ

フルート 7-10、48-51、87-90 小節

第1、第2オーボエ 11-13、52-54、91-93 小節

第1ホルン 85-87 小節

第2楽章 アダージョ アンダンテ アダージョ

独奏ヴァイオリン

独奏チェロ

第3楽章 メヌエット

フルート 9-22 小節

ファゴット 17-22、35-64 小節

第1、第2オーボエ 17-22 小節

コントラバス 35-42、57-64 小節

ヴィオラ 43-56 小節

チェロ 43-56 小節

第4楽章 フィナーレ:アレグロ

独奏ヴァイオリン

独奏チェロ

フルート 1-3、36-38、45-48、84-87、113-115、124-127 小節

ファゴット 36-38、115-123 小節

第2オーボエ 113-115 小節

第1オーボエ 115-117 小節

交響曲第7番八長調 Hob. : 7 (昼)

第1楽章 アダージョ アレグロ

独奏第1ヴァイオリン

独奏第2ヴァイオリン

独奏チェロ

ファゴット 27-34、118-125 小節

第2楽章 レチタティーヴォ:アダージョ アレグロ アダージョ アダージョ

独奏ヴァイオリン

チェロ 32-38、47-58 小節

第3楽章 メヌエット

第1、第2ホルン 5-8 小節

コントラバス 31-54 小節

第4楽章 フィナーレ:アレグロ

独奏第1ヴァイオリン

独奏第2ヴァイオリン

交響曲第 8 番ト長調 Hob. : 8 (晩)

第 1 楽章 アレグロ・モルト

フルート 13-23 小節

第 1、第 2 オーボエ 173-180 小節

第 1、第 2 ホルン 173-180 小節

ファゴット 175-180 小節

第 2 楽章 アンダンテ

独奏第 1 ヴァイオリン

独奏第 2 ヴァイオリン

独奏チェロ

ファゴット 6-9、92-103 小節

第 3 楽章 メヌエット

独奏コントラバス

ファゴット 17-24 小節

第 4 楽章 「嵐」: プレスト

独奏第 1 ヴァイオリン

独奏第 2 ヴァイオリン

独奏チェロ

フルート 14-18 小節

ファゴット 60-63 小節

(楽譜はランドン版による)

楽譜出版の経緯

1907 年に、「ハイドン全集」(旧全集)の刊行が開始されたが、10 巻を刊行した後、1933 年に中断した。第二次大戦後、アメリカのボストンに新たにハイドン協会が設立され、全集の刊行が再開された。このハイドン協会には、現代のハイドンの資料研究の基礎を築いたラルセンと、ハイドン復活の立役者の一人、アメリカのロビンス・ランドンが参加していたが、1950-1 年に 4 巻を出版した後、全集の刊行は再び頓挫してしまった。

しかし、1955 年、学問的に緻密な全集を新たに出版する目的から、ドイツのケルンにヨーゼフ・ハイドン研究所が創設された。初代の学術主任はラルセンが就任した。そして、1958 年より、新たな全集(新全集)が刊行され、交響曲については現在まで全 19 巻中 16 巻が刊行された。慎重な校訂作業による全集の刊行には時間がかかり、刊行が開始されてから 50 年がたった現在でも、全集は全巻刊行されていない。

こうした研究所の方針に対して、ハイドンの楽譜を実際の響きにするべく、独自の原典版の出版に取り組んだのがランドンだった。彼は一時期ハイドン研究所に所属していたが、あまりに慎重な研究所の方針と相容れず、独自に原典版の作成を行った。1968 年にランドン校訂のハイドンの交響曲全曲の楽譜が出版された。これが今日ランドン版と呼ばれる楽譜である。

新全集では交響曲はいまだ全曲刊行されていないので、現在発売されている CD 等のハイドン交響曲全集はランドン版によって演奏されている。

* 参考文献

- ・アルベルト・クリストフ・ディース著 ; ホルスト・ゼーガー編 ; 武川寛海訳『ハイドン ; 伝記的報告』(音楽之友社)(請求記号 C38-478、他)
- ・中野博詞著『ハイドン交響曲』(春秋社)(請求記号 J95-856)
- ・『ハイドン』(作曲家別名曲解説ライブラリー ; 26)(音楽之友社)(請求記号 C60-741、他)

展示資料

パネル

(朝) (昼) (晩) 三部作作曲当時のハイドン

出典:H.C. Robbins Landon "Haydn, a documentary study ; with 220 illustrations, 44 in colour" London : Thames and Hudson, c1981 (p.27)

エステルハージ宮殿

ハイドンは 1761 年 5 月 1 日にエステルハージ家の副楽長に就任した。

出典:H.C. Robbins Landon "Haydn, a documentary study ; with 220 illustrations, 44 in colour" London : Thames and Hudson, c1981 (p.26)

エステルハージ家の宮廷副楽長就任の契約書

契約内容としては、楽長のウェルナーが担当する教会音楽以外のすべての音楽を担当し、それには楽譜や楽器の管理、歌手の演奏水準を保つためのレッスン等の雑務も含まれていた。宮廷楽団の指導者としての品位ある言動も要求され、さらに来客の前で演奏する際に楽員の服装をチェックすることも含まれていた。

出典:H.C. Robbins Landon "Haydn, a documentary study ; with 220 illustrations, 44 in colour" London : Thames and Hudson, c1981 (p.43)

エステルハージ侯パウル・アントン・エステルハージ(Paul Anton Esterházy 1711-1762)

ハイドンがエステルハージ家の副楽長に就任した際のエステルハージ家の当主。ハイドンに作曲のテーマとして一日の時刻を与え、(朝) (昼) (晩) 三部作が作曲された。

出典:H.C. Robbins Landon "Haydn, a documentary study ; with 220 illustrations, 44 in colour" London : Thames and Hudson, c1981 (p.28)

書籍

アルベルト・クリストフ・ディース著；ホルスト・ゼーガー編；武川寛海訳『ハイドン；伝記的報告』

東京：音楽之友社，1978 請求記号 C38-478、他

アルベルト・クリストフ・ディースによる、晩年のハイドンからの聞き書きによる伝記。

中野博詞著『ハイドン交響曲』

東京：春秋社，2002 請求記号 J95-856

ハイドン全集の パリ交響曲 校訂作業の解説を含む、ハイドン研究所の日本人研究者によるハイドンの交響曲の解説書。

R. ランドン著；松永建訳『ハイドン / 交響曲』

(東京)：東芝EMI音楽出版，1981 請求記号 C32-614

ロピンス・ランドンによるハイドンの交響曲の解説書。

中野博詞著『ハイドン復活』

東京：春秋社，1995 請求記号 C60-400

ハイドン研究所の日本人研究者によるハイドンの解説書。

H.C. Robbins Landon "Haydn, a documentary study ; with 220 illustrations, 44 in colour"

London : Thames and Hudson, c1981 請求記号 C38-343

200 以上の図版を含む、ロピンス・ランドンによるハイドンの伝記。掲示した頁の写真はエステルハージ宮殿内の演奏会用ホール。

László Somfai "Joseph Haydn ; his life in contemporary pictures"

London : Faber, 1969 請求記号 C19-585

ハイドンの図版集。掲示した頁の写真はハイドンがエステルハージ家の副楽長に就任した際の契約書の最初のページ。

H.C. Robbins Landon "The symphonies of Joseph Haydn"
London : Universal Edition, [c1955] 請求記号 C4-253, 他
ロビンス・ランドンによるハイドンの交響曲の研究書。主題目録付き。

雑誌

「ラディカルな開拓者 没後 200 年 ヨゼフ・ハイドン」
『レコード芸術』58 巻 6 号 p.55 74 請求記号 P658 58(6)

「ハイドン 没後 200 年記念～交響曲の源流とその変遷を辿る」
『音楽現代』39 巻 4 号 p.49 75 請求記号 P640 39(4)

楽譜

H. C. ロビンス・ランドン校訂 『交響曲全集』
東京 : 音楽之友社, [1982] 請求記号 E10-108
ロビンス・ランドンによる(朝)(昼)(晩)を含む交響曲のミニチュア・スコア。

Herausgegeben von Jürgen Braun und Sonja Gerlach "Sinfonien 1761 bis 1763"
München : G. Henle, 1990 請求記号 A9-875
ハイドン新全集楽譜の交響曲の第 3 巻。校訂報告書はまだ刊行されていない。

[edited. by] H. C. Robbins Landon "Sinfonia no. 6"
Wien : Doblinger, c1965 請求記号 H25-59
ロビンス・ランドンによる(朝)のスコア。

[herausgegeben von] H.C. Robbins Landon "Sinfonia No. 7"
Wien : Doblinger, c1965 請求記号 H25-593
ロビンス・ランドンによる(昼)のスコア。

"Symphony no. 7 "Le midi": Hoboken I:7"
Budapest : Editio Musica, 1972 請求記号 H20-778f, 他
ハイドンの(昼)の自筆譜のファクシミリ。
楽譜の最初のページ左上に(昼)(Le midi)、右上に作曲年([1]761)の書き込みあり。

herausgegeben von Jürgen Braun und Sonja Gerlach "Sinfonie in C, Hob. I:7 = Symphony in C major ; (Le midi)"
Kassel : Barenreiter, c1991 請求記号 H36-140
新全集による(昼)のスコア。

[herausgegeben von] H.C. Robbins Landon "Sinfonia No. 8"
Wien : Verlag Doblinger, c1965 請求記号 H25-594
ロビンス・ランドンによる(晩)のスコア。

録音資料

アントル・ドラティ指揮、フィルハーモニア・フンガリカ 1972 年録音 請求記号 XD21330-3, 他
ネヴィル・マリナー指揮、アカデミー室内管弦楽団 1980 年録音 請求記号 XD112
トレヴァー・ピノック指揮、イングリッシュ・コンサート 1986 年録音 請求記号 XD4606
Adrian Shepherd 指揮、Cantilena 1988 年録音 請求記号 XD6725
クリストファー・ホグウッド指揮、エンシェント室内管弦楽団 1990 年録音 請求記号 XD21005-7
鈴木秀美指揮、オーケストラ・リベラ・クラシカ 2002 年録音 請求記号 XD51470

展示パンフレットは図書館ホームページからも入手できます。(バックナンバーも公開しています。)
<http://www.lib.kunitachi.ac.jp/tenji/tenji.htm>